

# ☆ 授業のヒント

今回は、ルールが簡単で、さまざまな学習項目に応用でき、準備に時間のかからない初級レベルのゲームを紹介します。

## テーマ すぐに使える言語ゲーム

目的 もくてき
ゲームをしながら、日本語を楽しく使う。
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級 しよきゅう
クラス的人数 にんずう
何人でも なんにん
準備するもの じゆんぶ
教室にあるもの。黒板、ノート、紙など。

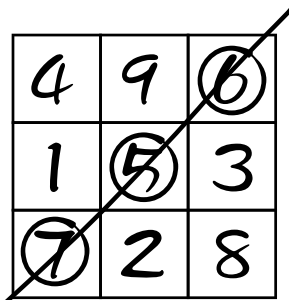
ゲームは「競争」を作り出すことによって、楽しみながら習った学習項目を何回も練習させることができます。さらに、学習者をリラックスさせ、単調になりがちな授業を活性化することができるので、学習者の集中力と学習意欲を高め、全体の学習効率をよくするという長所もあります。ゲームを成功させるコツは、「複雑でないルール」「ルールを完全に理解させる」「ルールを守らせる」ことです。

### ◆ビンゴ・ゲーム

単語や文型などを耳で聞いて、すぐに理解できるようにするための練習です。

#### <数のビンゴ>

- ①学習者に右の図のような九つのますをノートに書かせます。
- ②学習者は、1～9までの数字を好きなます目の一つずつ書き入れます。



- ③教師は順番を決めないで数字を言います。学習者は言われた数字に○をつけていきます。
- ④縦、横、斜めのどこか1列に○が三つ並んだら「ビンゴ」と言います（図は5、6、7が斜めに並んだ場合）。

- 合)。
- ⑤「ビンゴ」と言った人は並んだ数字を言います。正しく、一番早く「ビンゴ」と言った人が勝ちです。

#### 留意点

- 数を言うときに、順番どおりに言わない、一度言った数をもう一度言わないようにしましょう。

#### 応用

- 数のビンゴは、5、3、8…と数字を日本語で読むだけでなく、日にちの言い方を習った後なら、五日、三日…、と言って○をつけさせます。日にちだけでなく、他の助数詞をつけて言うこともできます。
- 数字をたくさん練習させたいときは、4×4の16のます目にするといいでしょう。

#### <動詞の活用形のビンゴ>

- ①教師は黒板に、学習者が学習した動詞を九つ以上書きます。このとき、マス形か辞書形で書くようにします。
- ②学習者は①の動詞から九つ選んで、好きなます目に書きます。
- ③教師は動詞のテ形を言います。学習者はテ形を聞いて、ます目の中からその動詞を探して○をつけます。あとは、数のビンゴと同じです。

#### 留意点

- 「着る」と「来る」、「行く」と「言う」のように、テ形が「きて」、「いて」と同じ形になる動詞があるので気をつけてください。
- 黒板に書く言葉が九つだとゲームがすぐ終わってしまいますから、九つ以上にしましょう。

#### 応用

- テ形だけでなく、さまざまな活用形でできます。また、「～てください」など文で言うやり方もあります。
- 食べ物、飲み物、動物、スポーツなど、学習者の好きなもの名詞を選んで黒板に書きます。学習者はその中から好きなものを選んでます目に書き入れます。学習者が順番に「私は～が好きです」と言い、ビンゴ・ゲームを進めます。学習者が文型を言う練習にもなります。

## ◆私は誰でしょう

学習者が書いた短い作文を聞いて、誰が書いたのかをあてるゲームです。

- ①学習者に何も書いていない紙(=白紙)を配り、テー

公園を散歩しました。  
花がきれいでした。

マを与えて作文を書かせます。例えば、「週末したこと、どうだったか」を書くように言います(上図)。そのとき、名前を書かないように言います。

- ②書き終わったら教師は紙を集めて、紙に書いてある文を読みます。  
③学習者は、教師が読む作文を聞いて、誰の作文だと思ふかノートに名前を書いておきます。  
④たくさんあてるのできた人が勝ちです。

### 留意点

- 書かせる作文のテーマはレベルによってさまざまなのが考えられます。趣味や好きなことなど、習った語彙や文型を使って2~3文程度の作文ができる身近な話題を選んでください。
- クラスの人数が多い場合は、クラスをいくつかのグループに分けて、チーム対抗にしてもいいです。
- 教師が作文を読んでいるとき、その作文を書いた人は、自分が書いたと言ってははいけません。

## ◆パートナー探し

カードに書いてある情報(条件)を使って会話をしながら、パートナーを探すゲームです。

- ①次のような条件カードをそれぞれ2枚ずつ準備します。

映画を見に行きます えいが み い	サッカーをします さくかーをし
図書館で勉強します としょかん べんきょう	富士山に登ります ふじさん のぼ
プールで泳ぎます およ	CDを買いに行きます か い

- ②学習者に一人1枚ずつ条件カードを渡します。  
③学習者は渡されたカードを見て次のような会話をしながら、同じカードを持っている人を探します。

このコーナーの担当者：中村雅子、阿部洋子(日本語国際センター専任講師)  
読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。

A: Bさん、日曜日に映画を見に行きませんか。  
B: すみません、映画はちょっと…(映画以外のカードを持っている)。  
A: そうですか。残念です。

A: Cさん、日曜日に映画を見に行きませんか。  
C: いいですね。行きましょう(映画のカードを持っている)。

- ④同じカードを持っている人を見つけたら、黒板に「日曜日に〜と〜は〜します」と書きます。  
⑤④まで速く正確にできたペアの勝ちです。

### 留意点

- 条件カードは、相手に見せてはいけません。
- 条件カードはクラスの人数の半分の種類を準備します。16人なら8種類準備します。大人数のクラスや、学習者が自由に動き回りにくい教室の場合は、いくつかのグループに分けたほうがいいです。
- 速さだけを競うと、会話をきちんとと言わない学習者が出るので、文を言わない人に罰を与えるようにします。また、速さを競うのではなく、次の活動のペアを作ったりすることを目的にするのもいいです。

### 応用

- 教師が条件を与えるのではなく、学習者に白紙を渡して、自由に条件を書かせてもいいです。
- 条件カードを配らないで、全部の条件を教師が黒板に書きます。学習者はその中から好きなものを三つ選んでノートに書き、それを条件として同じようにパートナーを探します。この場合、パートナーは複数いるかもしれないので、たくさんのパートナーを見つけた人を勝ちにします。
- 他にもいろいろな文型や表現で練習できます。「日時・言い方」で予定の合う人を探す、「〜でもいいですか」の文型でルームメイトを探す、「可能形・可能動詞」で就職の面接をして条件に合う仕事/従業員を探す、趣味や習慣を条件にして結婚相手を探すなど。

### 参考文献

- 『日本語教育におけるコミュニケーション・アプローチ』岡崎敏雄・岡崎暉(1990) 凡人社  
『教科書を作ろう(改訂版)』(2001) 国際交流基金日本語国際センター  
『クラス活動集101』高橋美和子・平井悦子・三輪さち子(1994) スリーエーネットワーク